

当院附属介護老人保健施設においてショートステイ利用者に退所直後に骨折等が
認められた事案に係る
宇和島市からの指導及び改善策について

平成31年3月15日
独立行政法人地域医療機能推進機構
宇和島病院 院長 渡部 昌平
附属介護老人保健施設 施設長 矢野 達哉

この度、当院附属介護老人保健施設（以下「当施設」とします。）において、平成30年度にショートステイ（短期間の入所）を利用した利用者様に、退所直後に骨折及びアザが認められ、宇和島市高齢者福祉課（以下「市」とします。）による調査及び改善指導を受けました。

当施設といたしましては、このような事案が発生し、利用者様はじめご家族、地域の皆様に多大なご迷惑をお掛けしましたことを、心よりお詫び申し上げるとともに、発生の実を真摯に受け止め、再発防止策を徹底し、市及び地域の皆様からの信頼の回復に努めてまいります。

以下、本件の経緯及び改善策について、報告します。

○本件の経緯

平成30年10月、当施設にショートステイとして短期入所していた利用者様（80歳代、男性）の関係者から、退所当日、利用者様のご自宅で胸部と腹部に痛みを訴えておりアザがあった旨の連絡を受けました。また、後日、肋骨骨折があることも判明しました。

当施設としては、この連絡を受け、直ちに内部調査を実施しましたが、肋骨骨折等を生じさせ得る行為や事故があった事実は確認できませんでした。また、入所期間（5日間）中、職員が利用者様の入浴時等に胸腹部を十分観察していなかったため、いつから負傷されていたのかを確認することもできませんでした。こうした確認結果をご家族に報告するとともに、以降、市の調査に協力することとしました。

平成30年11月に市による調査が行われ、平成31年2月8日に、調査の結果、認識・観察不足による不適切なケアがあったこと、このようなケア自体も高齢者虐待に当たることの指摘を市から受けるとともに、改善の指導を受けました。市からの指導を機に、改めて、短期入所中に利用者様と関わらなかった職員にも対象を広げて徹底した内部調査を実施しましたが、身体のアザや骨折の原因となる事実や証言は確認できませんでした。

当施設としましては、このようなことが二度と起こらないよう、現在、JCHO本部の指導のもと、市からの指摘等に沿って改善を進めています。

○改善指導の内容と改善策の概要

1. 短期入所の利用者について、主担当者を明確に定めていなかったことが問題との指

摘に対し、主担当者及びその業務内容を明確にし、マニュアルを整備しました。また、利用者の介護に関わる職員間で情報共有を徹底させることとしました。

2. 入浴、更衣時に利用者の身体を確認できるように見直すべきとの指摘に対し、全身、特に衣服により通常は隠れている部位を的確に確認するように、マニュアルを改訂しました。

3. 虐待防止マニュアルや研修資料が不十分であるとの指摘に対し、「高齢者虐待防止に関する指針」、「高齢者虐待防止マニュアル」を改訂するとともに、全職員に対し研修を行い、マニュアルの内容の周知を徹底しました。

また、教育・研修については、次の内容の研修を毎年定期的に行い、職員の資質の向上を図ります。

- ・高齢者の身体的・心理的特徴を踏まえたケアの実践
- ・多職種間の連携の推進
- ・介護技術の向上 等

4. 市の調査により、職場内の連携、看護職員と介護職員との職種を超えたコミュニケーションが不足している等の問題が見つかったとの指摘に対し、職員間で自由に話せる会合の場を設け、職員同士での情報共有、信頼関係や協働性を築けるような職場風土へと改善させます。

5. 苦情や事故等に係る組織内での報告体制を見直すべきとの指摘に対し、施設長及び本部への報告手順を示した図を全職員が目にする場所に掲示しました。

今後、上記の改善策を徹底し、利用者様の安心・安全な生活を最優先にサービスの提供に努め、地域の皆様からの信頼を一日でも早く取り戻すべく、全職員一丸となって決意を新たにしてまいります。

【照会先】

独立行政法人地域医療機能推進機構

宇和島病院

事務長 斧 信之

電話：0895-22-5616